



熊本城を再現した砂像＝鹿児島県南さつま市

復興願い 砂で熊本城再現

鹿児島 崇城大生、OBら出席

海外の芸術家や市民らが作った砂の像約百基を展示

する「吹上浜 砂の祭典」が3日、鹿児島県南さつま市で始まった。熊本市の崇城大の学生やOBら5人が、熊本城を再現した砂像を出展。細かくかたどられたしゃちほこや堂々とした城のたたずまいに、来場者は足を止めて見入っていた。31日まで。

熊本城の天守閣の砂像の高さは約3層、石垣の横幅は約2・5層。祭典の実行委が熊本地震の被災地の復興を願い、鹿児島県霧島市出身で、祭典の審査員を務めたことがある同大芸術学部の特任教授に制作を依頼。同大OBで熊本市の彫刻家、東耕平さん(33)を中心に、5日間かけて作ったという。

初めて手がけた砂のまろさに苦労したという東さんは「今後もチャレンジして、熊本城の復元に合わせて洗練させていきたい」。楠元さんも「熊本のことを思い出してもらう機会をいただいて、大変感謝している」と話した。

砂像を見た鹿児島市の会社員浜田愛子さん(32)は「復興を願い、鹿児島まで来て制作してくれたことに感謝を受けた」と話し、義援金を寄付していた。

(大崎浩義)